

# L 票

以下に掲載する事例は、いくつかの典型的なものをシュミレーションし、模擬的に作成したものです。実在する生徒のものではありません。

## 事例 1 15 歳男子 読字・書字に苦手さがある

### 生徒の実態

本事例では、11番から15番までの項目の合計点が12点、16番から20番までの項目の合計点が14点と高くなっている。読字と書字に困難を示す生徒と考えられる。また、計算に関する項目も基準点にはならないが、8点と高めの点となっており、計算や数量の把握に苦手さを示す生徒であると考えられる。

学校では、学習全体に対して意欲が低く、学業不振に陥っている。部活動は熱心に取り組んでいて友人関係も良好である。本人は自分は頭が悪いと思っているようだが、会話の様子からは決して理解力の低い生徒とは思えないところがある。

L 票	ない	まれにある	ときどきある	よくある
1. 聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違える)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
2. 聞きもらしがある。(ゆっくりだと聞きとれるが、説明が早いと内容を聞き落とすことがある)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
3. 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。(全体の場での指示では、内容が伝わっていなかったり、指示を聞き逃したりすることが多い)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
4. 指示の理解が難しい。(理解力が弱く、聞いているのに指示が理解できない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
5. 話し合いが難しい。(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
6. 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話したり、とても早口で話したりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
7. ことばにつまったりする。(考えていることを話すとき「その」「あの」となったり、言い間違えたりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
8. 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。(助詞の間違えや、その他文法的に誤りの多い話し方をする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
9. 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。(話がよくとんだり、脱線したりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
10. 内容をわかりやすく伝えることが難しい。(聞く人や読む人がわかりやすいように考えて整理して話したり書いたりするのが苦手)	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3
11. 定型句やフレーズをあまり知らない。(「 のときに するやつ...」など言葉の語彙が少ない)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
12. 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3

13. 本を読むのが遅い。(音読あるいは黙読において、文章を読むのに時間がかかる)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
14. 勝手読みがある。(「いきました」を「いました」と読む)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
15. 文章の要点を正しく読みとることが難しい。(文章を読んで内容を理解するのに時間がかかる)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
16. 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
17. 独特の筆順で書く。(漢字というより記号としてとらえているようなロゴマークのような書き方をする)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
18. 漢字の細かい部分を書き間違える。(1本線や点が多かったり少なかったり、つきぬけたりつきぬけなかったりする)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
19. 句読点が抜けたり、正しく打つことができない。(やたらと句読点が多かったり、句読点がなく、不自然にずっと文が続いていたりする)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
20. 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない。	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
21. 数の意味やいい方についての理解が難しい。(三千四十七を300047や347と書く、分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
22. 簡単な計算が暗算でできない。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
23. 計算をするのにとっても時間がかかる。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
24. 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。(四則混合の計算、2つの立式を必要とする計算)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
25. 学年相応の文章題を解くのが難しい。(文章題の内容をつかみ、どんな関係にあり、どんな式を立てたらいいのかわからなかったり、間違えたりする)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
26. 量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。(長さやかさの比較や「1g/cm <sup>3</sup> 」「15cmは150mmである」など単位の意味を理解したり換算したりすることが難しい)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
27. 見取り図や展開図などの図形を描くことが難しい。(ホワイトボードに描かれた絵や図を見て写すことが難しい)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
28. 物事の因果関係を理解することが難しい。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
29. 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい。	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3
30. 早合点や飛躍した考えをする。	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3

### 支援の方針

- ・未習得あるいは誤学習している平仮名文字を確認する
- ・その文字の徹底した音読をする。楽に音読できるまで繰り返す
- ・未習得単語の読みを教え、意味を教え、例文作りをする
- ・漢字書字では、書き順が大切
- ・漢字はイメージが持てるように、イラストなどを用いて説明しながら教える

## 事例2 16歳女子 数の扱いに苦手さがある

### 生徒の実態

本事例は、21番から25番までの項目の合計点が15点と著しく高いことから、計算に大きな困難があると考えられる。26番から30番の項目の合計点も11点と基準には達していないが、高めであることから数量の概念や論理的な思考に苦手さのある生徒であると考えられる。

学校では計算機を使って計算をする実習でも誤りが多く、計算というよりも数の扱いそのものに大きな困難があるように思える。国語や社会の学習は好きなようで成績はよい。友人関係も普通な感じである。

Ｌ票	ない	まれにある	ときどきある	よくある
1. 聞き間違いがある。(「知った」を「行った」と聞き間違える)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
2. 聞きもらしがある。(ゆっくりだと聞きとれるが、説明が早いと内容を聞き落とすことがある)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
3. 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。(全体の場での指示では、内容が伝わっていなかったり、指示を聞き逃したりすることが多い)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
4. 指示の理解が難しい。(理解力が弱く、聞いているのに指示が理解できない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
5. 話し合いが難しい。(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
6. 適切な速さで話すことが難しい。(たどたどしく話したり、とても早口で話したりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
7. ことばにつまったりする。(考えていることを話すとき「その」「あの」となったり、言い間違えたりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
8. 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする。(助詞の間違えや、その他文法的に誤りの多い話し方をする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
9. 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい。(話がよくとんだり、脱線したりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
10. 内容をわかりやすく伝えることが難しい。(聞く人や読む人がわかりやすいように考えて整理して話したり書いたりするのが苦手)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
11. 定型句やフレーズをあまり知らない。(「 のときにするやつ…」など言葉の語彙が少ない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
12. 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
13. 本を読むのが遅い。(音読あるいは黙読において、文章を読むのに時間がかかる)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
14. 勝手読みがある。(「いきました」を「いました」と読む)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3

15. 文章の要点を正しく読みとることが難しい。(文章を読んで内容を理解するのに時間がかかる)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
16. 読みにくい字を書く。(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
17. 独特の筆順で書く。(漢字というより記号としてとらえているようなロゴマークのような書き方をする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
18. 漢字の細かい部分を書き間違える。(1本線や点が多かったり少なかったり、つきぬけたりつきぬけなかったりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
19. 句読点が抜けたり、正しく打つことができない。(やたらと句読点が多かったり、句読点がなく、不自然にずっと文が続いていたりする)	<input checked="" type="checkbox"/> 0	1	2	3
20. 限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない。	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
21. 数の意味やいい方についての理解が難しい。(三千四十七を300047や347と書く、分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
22. 簡単な計算が暗算でできない。	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
23. 計算をするのにとっても時間がかかる。	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
24. 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい。(四則混合の計算、2つの立式を必要とする計算)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
25. 学年相応の文章題を解くのが難しい。(文章題の内容をつかみ、どんな関係にあり、どんな式を立てたらいいのかわからなかったり、間違えたりする)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
26. 量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい。(長さやかさの比較や「1g/cm <sup>3</sup> 」「15cmは150mmである」など単位の意味を理解したり換算したりすることが難しい)	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
27. 見取り図や展開図などの図形を描くことが難しい。(ホワイトボードに描かれた絵や図を見て写すことが難しい)	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
28. 物事の因果関係を理解することが難しい。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
29. 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3
30. 早合点や飛躍した考えをする。	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3

### 支援の方針

- ・十の分解、合成を教える
- ・十進法を教え、位の概念を教える
- ・概数(大雑把に把握している数の感覚)を体験的に学習する(豆をひとつかみしておよその数を当てるなど)
- ・電卓操作の習得

# 特性理解と支援

## 1 「聞く」ことの困難さ

「聞く」ことの困難さとは、聴力には問題はないのに、聞き取った情報を上手く処理できないために、学習を行う上で必要な情報が活用できない状態のことをいいます。

指示や説明を聞いてもすぐに忘れてしまうことへの支援

聞いたことを忘れやすい原因として、短期記憶の苦手さがあるといわれています。このような場合、一度に複数の情報を聞いても覚えにくいために、指示とは違う行動をする、ぼーっとしている、話を聞かずに別の事をしているなどの様子が見られます。

- ア 1つの説明で、1つの行動を指示する
- イ 短い言葉で伝え、ゆっくりと話す
- ウ 多くの内容を伝える時は、板書やプリントに書いて示す
- エ メモを取りながら話を聞く習慣を身につけさせる

必要のない音に注意が向いてしまいやすいことへの支援

このような特性は、注意や集中の困難さがある生徒によく見られ、必要な音の取捨選択ができにくいためと考えられています。注意がそれる音としては、

・他の生徒の私語 ・隣のクラスの話声 ・通行する車の音 ・空調の音  
などがあげられます。一方、話者へ視線が向いていると聞くべき声に注意が向きやすいといわれています。

- ア 私語や騒音など物音が聞こえない静かな環境を整える
- イ 伝えたい内容は、歯切れよく明瞭に話す
- ウ 他のことに注意がそれている時は、話者に視線を向けさせる
- エ 話者の顔を見れば話に注意が向きやすいことを生徒に意識させる

聞いたことの内容が理解できないことへの支援

高校生レベルの内容や話し方をしても、内容を理解できていないような場合は、年齢相応の語彙が習得されていないことが考えられます。

- ア 語彙を増やすために短文づくりを行う
- イ 教職員が易しい言葉を使って話す
- ウ 全体に指示を出した後、個別に指示を出す
- エ 言葉の理解を補うために、授業の中で見本や実物を見せる工夫を行う
- オ 体験的に学べるように、体を動かす活動を授業に取り入れる
- カ 話の内容が分からない時は、教職員や友だちに自ら質問する態度を身につけさせる

会話のやり取りについていきにくいことへの支援

このような特性は、「対人関係の苦手さ」(P.36 参照)がある生徒によく見られます。表情、身振り、語調などから、相手の考え方や感情を読み取ることのスピードが遅いため、話題や論点から取り残されると考えられます。特に、生徒同士の話し合い活動では配慮が必要です。

ア 意見を言う順番、司会、記録など話し合いのルールをあらかじめ決める

イ ワークシートに今日の議題を示し、自分の意見を書き込んだり他者の意見を書きこんだりできるようにする

ウ 議事や意見、新しい課題など話し合いの内容の進み具合を教職員が黒板にまとめる

## 2 「話す」ことの困難さ

「話す」ことの困難さとは、自分の考えをまとめにくい、自分の考えを言葉に変換できにくいなどのために、自分の考えが相手に上手く伝わらない状態のことをいいます。意思の伝達につまずくために、学習面だけでなく生活面でも困り感が多くなります。

考えていることを思考に留めておきにくいことへの支援

このような特性がある場合、次から次へと考えが思い浮かび、

- ・今考えていることを忘れないうちに話しきってしまうように早口になる
- ・次の考えが思い浮かび、話題が次々移りやすい
- ・たくさんのお話を話した割には、最終的に言いたいことがまとまらない

などの様子が見られます。

ア 話し出す前に、理由や結論などをまとめ、メモする習慣が身につくように指導する

イ 聞き手が話の内容をまとめる( と について話したいんだね)

ウ 聞き手が話の方向を修正する( についてはどうなったの?)

言葉を思い出すスピードがゆっくりなことへの支援

この特性は、「読む」ことの困難さ(P.48 参照)がある生徒によく見られます。読むことと並行した支援が必要です。生徒の様子として、

- ・会話が途切れ途切れになる
- ・助詞を間違えたり抜かしたりする
- ・言いたいこととは違う物の名前を言うことがある
- ・話したいことが思い出せず、伝えることをあきらめる

などの様子が見られます。

ア 急がせない(急がせると、さらに言葉を思い出しにくくなり話をやめてしまう)

イ 思い出しにくそうにしている時は、聞き手が質問して思い出す手助けをする

ウ 選択肢のある質問をする

例:「何を食べたの?」 「パンを食べた?、それともご飯?」

構造的に話を組み立てることが困難なことへの支援

このような困難さがあると、生徒の様子として、

- ・文法構成（いつ、どこで 等）がうまくいかず、意味の分かりにくい話になる
- ・時間や場面のつながりがイメージしにくいいため、話がつながらない展開になる

ことなどが見られます。

ア 「いつ」「どこで」などと質問して、文法通りに話せるように支援する

イ 「へ行ったんだね」「さんと一緒だったんだね」など、聞き手が話の内容をまとめる

自分を表現することをためらうことへの支援

このような生徒は、これまでの生育の中で、

- ・他者と楽しい感情を共有し、気持ちを解放した経験が少ない
- ・自分を受け入れてもらった体験が少ない
- ・「したいこと」を自己決定した経験が少ない
- ・否定的な対応をされた経験がある

などの背景が考えられます。教職員の受容的な接し方が求められます。

ア 小さな声での反応やうなずきなど、少しの自己表現でも受け止める

「はっきりと、大きな声で言わないと分からないよ」という声かけはしない

イ ゲームやスポーツを通して、教職員や生徒と楽しい感情を共有する体験をさせる

ウ どんなに小さなことでも本人が決めたことは尊重し、自己決定の経験を積ませる

### 3 「読む」ことの困難さ

「読む」ことの困難さとは、紙面や画面にある「文字」を見て、そこから「文意」を理解するまでに時間がかかる状態のことをいいます。文字の読みを思い出すことに時間がかかる、眼球が動きにくいなどの原因が考えられています。学習のほとんどが、文字の情報を理解することで成り立っている高等学校の授業では、内容の理解が難しくなります。

特に、テストの問題文の意味を理解することに時間がかかり、定期考査や各種模擬試験、入学試験には大きなハンデを背負うことになります。

文字の読みを思い出すスピードが遅いことへの支援

高校生では、ある程度のスピードで読めるようになっています。しかし、新出や画数の多い漢字、英単語の読みが思い出しにくく定着がスムーズではありません。

ア 教科書や印刷物は教職員が範読して聞かせるようにする

イ 配布物にはふり仮名をつける

ウ 内容を理解するために、家庭であらかじめ読んでおく学習態度を身につけるように指導する

テストの際に配慮できることとして、

- エ テスト結果が不公平にならない漢字にはふり仮名をつける
- オ 別室でテストを実施し、時間を延長する
- カ 別室でテストを実施し、テスト結果が不公平にならない文章は教職員が読み上げるなどが考えられます。

眼球がスムーズに動きにくいことへの支援

印刷された文字を読むには、

- ・上から下（または左から右）に文字を追うゆっくりとした動き
- ・行末から行頭に移動する素早い目の動き

という2種類の目の動きを必要とします。しかし、この動きに困難があると、思った所に目が動かないため、

- ・行頭に移動する時、1行飛ばす
- ・途中から隣の行に飛んでしまう
- ・文字の読み飛ばしがある

などの様子が見られることがあります。

ア 教科書を拡大コピーして文字を大きくする

イ 定規など目印になるものを添えて、見るべきところをはっきりとさせる

ウ くるくると目を動かしてスムーズな目の動きの練習をすることが効果的なことを知らせる

## 4 「書く」ことの困難さ

「書く」ことの困難さとは、指先の動きにくさ、文字の形のとらえにくさ、文字の形の記憶があいまいさ、文法の混乱などにより、文字または文章を表現しにくい状態のことをいいます。

高等学校では、学習の成果はほとんどを文字で表現しなければなりません。特に各種テストでは、筆記で解答することが求められますので、学習内容は理解できているものの成績に結びつかないことがあります。テストの解答方法について配慮することが必要な場合もあります。また、大学入試や採用試験へ向けての対策を立てるなど、将来に向けて自己理解を深め、自ら取り組もうとする意欲を高める指導・支援が必要です。

指先が不器用なことへの支援

指先が不器用だと、思うように指先が動かないために、ねらった所にペン先が動きにくいことがあります。そのために、

- ・小さな文字が書きにくい
- ・枠から文字がはみ出る
- ・線がまっすぐに引けない

などの様子が見られます。生徒は精一杯に書いているにもかかわらず「汚い字」「読めな



い」などの声かけで、書く意欲をそがないようにする配慮が必要です。

ア 大きな罫線や枠を準備し、書くことへの抵抗感を減らす

イ ワークシートを用意し、生徒の書く負担を少なくする

ウ 1つでも整った文字があったらそれをほめる（整った字を書いた時の指の動きを思い出出すことが練習になる）

エ 「汚い字」「読めない」といった否定的な声かけはしない

文字の形がとらえにくいことへの支援

この特性がある生徒が、文字を見た時に混乱することは、

- ・線と線の交わり方            突き出る・出ないか迷う 等
- ・線の傾き方                右斜め・左斜めか迷う 等
- ・線の連続                 「果」を「田」と「木」に分けてしまう 等
- ・線の本数                 「春」には横の線が何本あるか迷う 等
- ・書き順                    右から線を引くか左からひくか迷う 等

などの、形の構成に関わることであるといわれています。またアルファベットのbとd、pとqを混同することもあります。

ア ワークシートを用意し、生徒の書く負担を少なくする

イ 書き順が違っていても、文字の形になればよしとする

ウ 漢字を多用することをあまり求めない

エ アルファベットは黒板に大きく書いてよく見えるようにし、特徴をとらえやすく提示する

記憶があいまいになることへの支援

文字の形を思い出す時に、似たような情報と混同してしまうためスムーズに思い出しにくいといわれています。混同するパターンは、

- ・似た形の文字            「ね」と「わ」、「若」と「岩」 等
- ・同じ読み方の文字       「漢字」と「間字」 等
- ・似た意味の文字        「教師」と「先生」 等

などです。一生懸命に思い出しながら書かなければならないため、大変な時間と労力がかかります。そのため、書きやすいひらがなを多く用いて文章を書こうとすることが特徴です。書くことに疲労を感じるので、書く作業を避けることもあります。

ア ワークシートを用意し、生徒の書く負担を少なくする

イ 漢字を多用することをあまり求めず、ひらがなの記述も許容する

ウ テストなどは別室で受けさせ、実施時間を延長するなどの配慮をする

作文を書くことが苦手なことへの支援

書きたい内容は頭の中にはありますが、文章にする時に文法の規則どおりに言葉が並べられない、表現したい言葉がスムーズに思い出せない、文字を書くことが苦手といった

様々な要因で、作文を苦手とする生徒がいます。

- ア 教師が書いた作文の手本を見せ、生徒が作文の構成や展開のイメージを持ちやすくする
- イ 長い作文を書くことや技巧的な表現技法は求めず、事実とそれに対する生徒の感想が記述されればよしとする
- ウ 「5W1H<sup>1</sup>」を一つずつカードに書き、順番に並べることで文章の構成をとらえやすくする
- エ どうしても書き始められない生徒へは、教師が聞き取りをして、その内容をある程度メモ書きにしてまとめ、それを見ながら生徒が書けるようにする

#### テストへの支援

筆記テストを実施する教科の教科担任は、「書く」ことが困難な生徒がいることを認識し、場合によっては、テストでは特別な配慮があることを共通理解することが必要です。

- ア テストの回答欄を大きくする
- イ ひらがなでの記述を許容する
- ウ 学習内容の定着を確認するための目的であれば、個別に口述試験も取り入れる

#### 自己理解を深めることへの支援

「書く」ことが苦手な生徒は、自分が書けないことをある程度自覚しています。将来的にはワープロ機器を代替手段として使用できるものの、高等学校の期間や大学入試や採用試験では筆記が求められます。過去の問題を見せるなどして大学入試や採用試験で求められる筆記の量や方法を知らせ、生徒自身が意識を持って取り組もうとする意欲を高める指導・支援が必要です。

## 5 「計算する」ことの困難さ

「計算する」ことの困難さとは、量のイメージが持ちにくい、文章問題の式が立てられない、計算の手順を間違えるなどの困難さのために、必要な答えを導き出すことができない状態のことをいいます。計測、計量、計算などを扱う教科で成績に結びつかないことが多くあります。

#### 計算の手順を忘れやすいことへの支援

この特性は、「読む」ことに困難さ（P.48 参照）のある生徒によく見られます。「計算する」ことの困難さが見られる場合には、「読む」ことの困難さも注意してみましょう。

計算問題をある程度自力で解くことができるようになって、数日すると忘れていくことがあります。しかし、ヒントを与えると、再び問題を解くことができるようになります。これは手順を理解していないからではなく、一度学習した手順を「思い出しにく

---

<sup>1</sup> 5W1Hとは、文章を構成する時の最低限必要な内容を表しています。具体的には、いつ(When)どこで(Where)、誰が(Who)、何を(What)、なぜ(Why)、どうした(How)の6つとなります。

い」からではないかと考えられます。繰り返し同じ手順の問題を解くことで定着しやすくなります。

- ア 問題を解かせる前に教師が解き方の手順を示し、解き方を思い出しやすくする
- イ 期間があくと手順を思い出しにくくなるので、毎日1問ずつ問題を解くことで繰り返し同じ手順の問題に取り組ませる

#### 数字が表わす量をイメージしにくいことへの支援

計算をしたり文章問題を読んで式を立てたりする時には、数字が表わす「量」をイメージし、それを並べたり合わせたり比べたりして「動かす」作業を頭の中で行う必要があるといわれています。つまり、数直線などの図式を頭の中に描いているのです。

文章問題が苦手な生徒は、数字の「量」をイメージし、頭の中に図式を描くことに困難さがあるのではないかと考えられています。したがって、いくら文章を読んでも、数量関係がイメージできにくく、立式につながりにくいと考えられています。教師が数量関係を紙に書く支援をし、目で見て関係をとらえられるように支援しましょう。

#### 段階を追って考えにくいことへの支援

計算や文章問題を解く時は、段階を追って部分ごとに解き、最後にまとめて答えを導きます。しかし「計算する」ことに困難さのある場合は、自分で段階を設定し部分ごとに分けられないことがあります。どこから手をつけていいか見当がつかないため、問題に取りかかれなくなるのです。段階を追って問題を解けるように、スモールステップを設定するように教師が支援しましょう。

#### スモールステップ設定の例

##### もとの問題

「8個で40gの積木と、5個で30gの積木では1個あたりの重さはどちらが重いでしょう」

##### スモールステップ化

8個で40gの積木の1つ分の重さを求めましょう

5個で30gの積木の1つ分の重さを求めましょう

どちらの積木の方が重たいでしょう

## 6 「推論する」ことの困難さ

「推論する」ことの困難さとは、自分が知り得た情報を活用して、新しいことを予想し決定することができにくい状態のことをいいます。この力は理科や社会など、原因から結果を予想する活動、図形や量を比較し検討する活動など学習面の様々な場面で必要となります。

#### 図形や量をイメージの中で動かすことへの支援

チェック項目26番、27番にあるような単位の変換や図形問題を行う時には、頭の中に空間的な広がりをつくり、その中で形や量を回したり動かしたりする作業が必要となります。この力に困難さがある場合、面積や体積、長さといった空間的な問題を苦手

とすることがあります。

ア 頭の中でイメージすることが苦手なので、教師が図に描いて実際に目に見えるようにする

イ 作図の課題では、起点となる点や線分を与える

ウ 板書の図形を描き写す時は、見本を与え手元で見て写せるようにする

エ 補助線を加える、線分に色をつけるなど手がかりが描いてあるプリントを使う

物事を構造的にとらえにくいことへの支援

物事をとらえる時には、個々の出来事を分類したり比較したりして構造的にとらえることが必要です。この力に困難さがあると、因果関係をとらえにくくなります。結果から原因を考察する学習は理解しにくく、予想もしない早合点や飛躍した考えをすることがあります。また、実験などの手順を見直す際にも、結果の善し悪しと実験方法の因果関係を結びつけにくいと考えられます。

ア 原因と結果の結びつきをとらえやすくするために、出来事の移り変わりを1つずつ順番に提示する

イ 複数の出来事を構造的にとらえられるように、チャート図やイラストを使う



## コラム

### 保護者に医療機関の受診を勧めるには

最近、多動・衝動性や暴力行為、不安などに効果がある内服薬が開発されています。生徒によっては服薬によって、落ち着きが増したり不安が軽減したりすることがあります。その結果、教職員の指導・支援を受け入れやすくなり教育的効果が高まる場合もあります。教室や学校の環境を整備し、指導・支援を工夫しても効果が見られない場合は、医療機関と連携することも必要です。

保護者に医療機関の受診が必要な理由をしっかりと理解してもらい、受診を勧めましょう。受診を勧める際は以下の点に注意しましょう。

1 急いで勧めない	教職員が受診の必要性を感じていても、保護者は必要性を感じていない場合があります。急いで受診を勧めると保護者が動揺することがあります。 また、学校での支援がすすんでいないのに受診を勧めると、保護者が不信感を抱く原因となります。環境整備など教職員ができる支援を十分に行ってから勧めるようにしましょう。
2 生徒像を共有する	保護者が受診の必要性を理解するためには、教職員がとらえている生徒の様子を保護者と共有することが必要です。日頃から、できている事や生徒が困っている事を保護者に知らせ、情報の共有に努めましょう。 直接保護者と会って話し合う機会を持つと、情報の共有がすすみやすくなります。
3 受診を勧める タイミング	保護者の生徒理解がすすむまで十分に待ちましょう。 保護者の生徒像が教職員と一致し、生徒の問題点と改善すべき点を共通理解できた時が受診を勧めるタイミングです。
4 受診の勧め方	「障がいがある」「多動・衝動性がみられる」といった言葉は避けましょう。「せっかくの力が発揮できず学習が積み上がらないのもったいない」など、生徒が困っている様子を根拠にして受診の必要性を説明しましょう。 本人・保護者の同意が得られたら、医療機関の情報を提供して受診への見通しが持てるように支援しましょう。
5 学校の様子を 医師に伝える	本人・保護者・医師の了解を得て教職員も受診に同行して、学校での様子に応じた配慮事項のアドバイスをもらいましょう。 同行できない場合は、学校での生徒の様子についてレポートにまとめ、保護者に持参してもらおうと、医師に詳しい情報を知ってもらえるのでアドバイスが得られやすくなります。